

二〇二四年度 一般選抜 学力検査(国語)

国語総合 (近代以降の文章) ・ 現代文B

解答番号

1

}

28

一 次の文章を読んで後の問い（問1～問9）に答えなさい。

画家パブロ・ピカソと過ごしたフランスワーズ・ジローが『ピカソとの日々』という回想録を残しています。そこに興味深い話が書かれています。ピカソは、芸術家や哲学者のサルトルやボーヴォワールといった知識人ともつきあいがありました。そのなかの一人、作家アンドレ・マルローが訪れた際のことです。

ピカソはフランスワーズに彼女の描いた絵を見せるように言います。そこで彼女は、フランス南西部レ・ボーードロップヴァンスを旅した時の思い出をもとに描いた絵を、彼らの前に差し出します。二人は岩だらけの壮大な景観を持つレ・ボーの地が描かれた絵を眺めながら、まずピカソがこう言います。

(1) あ的地獄谷を見下ろして立つと、この世のものならぬ雰囲気を感じる。ダンテを思い出すよ。

するとマルローは「それもそのはず」と応えて、次のように続けるのです。

フィレンツェから追放されたダンテは、フランス放浪中にあそこへ行き、その情景をもとに『地獄篇』じごくへんを書いたのだからな。

ピカソには、岩だらけの谷の絵からダンテの『神曲』の「地獄篇」がイメージされるのです。ダンテを持ち出すこの連想こそが、ピカソの教養、つまり文化資本の豊かさを感じさせるわけです。

A、それにもましてマルローはというと、ダンテが「地獄篇」を描くケイキケイキとなった生々しい足取りまでも語るのです。

同じように岩だらけのレ・ボーの景観の絵を見ても、このように鑑賞者の心に響くものは異なります。単なる絵画の出来映え

や技量の評価といった絵画の世界に閉じられることなく、文学界のダンテが登場し、さらには作品の背後に隠された作者自身の動向にも想いをめぐらすわけです。

いや、それにしてもつくづく思うのです。教養のある人は、絵を鑑賞するのにもなんと深みのある見方をするのだと。そこには、自分たちが身につけた文化や知識・情報が刻まれた感覚が強く反映されているということです。

深みのある鑑賞とは趣を異にした興味深い知識人たちの解釈があります。一つのキャンバスに男女が描かれた絵画をめぐるものです。

19世紀後半、フランスやイギリスの画家たちがキャンバスに男女を描く際、女性には多くの光を当てられて繊細に描きました。それに対して男性はというと、じつと女性を見つめる大雑把に描かれた横顔です。そして、男性から視線を向けられた女性は、その視線から逃れるように、どこかあらぬ方向を見ながら正面を向いているのです。

美術批評家のジョン・バージャーはこの構図を、男性は女性と親密な関係になろうと言い寄る姿で、女性は言い寄られた後の決断の瞬間に焦点が合わされているとして、「男は女を見る。女は見られている自分自身を見る」と解釈しました。

女性は、歩いている時も、父親が亡くなって涙している時も、他人からどう見られているのか、いいかえると男性の目にどう映るかを考えていると評します。

B、女性は男性という観察者を内に秘めながら、常に女性である自分自身をモニタリングしているというわけです。

⁽²⁾ バージャーのこの視点は、「女に生まれるのではない、女になるのだ」と述べたシモーヌ・ド・ボーヴォワールを引き継ぐものです。ボーヴォワールは、男性の庇護のもとでつくられていく女性は「第二の性」として、男性から貶められた位置に置かれていると主張しました。彼女の発信は、女性解放運動への道を切り開いたのです。また、生物学的な分類ではなく、社会的・文化的につくられる性別を問題にするジェンダー論の幕をこじ開けた哲学者と言えるでしょう。

バージャーの評が、男性のまなざしの対象となっているというこれまでの知の流れの延長線上にあるのに対して、別の視点か

ら捉えたのがステイヴン・カーンです。^(注1)

男性が言い寄るのに対して、受け入れるか受け入れないかという選択は女性の側にある。だから、男性が言い寄るその瞬間は、女性の側に権力があることになる。となれば男性は女性に選ばれる側に位置することになるわけで、受け身になると言うのです。

そこでカーンは、ヴィクトリア朝時代の美術は、男性の色好みのまなざしから目を逸らす女性たちで満ちているけれど、女性が表現する豊かな主体性をこれまでの学者たちは見落としてきたと批判します。そして、男が結婚を口にした時に初めて、女は強力にコントロールできる立場を手にするようになる。この女性が輝く瞬間を画家は描いたのだと主張するのです。⁽³⁾

さて、みなさんはカーンの捉え方をどう思われますか。僕がカーンの主張に惹かれるのは、絵画の見方はこうあるべきという知識人たちの偏った視点に対して、新たな視点で眺めたところにあります。

ここまで、同じものを見ていても見え方が違うことについて述べてきました。次に、一つの出来事においても、職業や経済力といった社会的な地位や立場の違いによって見える風景が異なることについて、もう少し考えてみることにしましょう。

ここでも取り上げるのは、イブセンの『人民の敵』です。^(注2)

町の温泉施設専属医の職に就く科学者トマスは、温泉が汚染されていることを発見します。人民とともに歩む『人民日報』の編集長はトマスに紙面で事実を公表するよう迫ります。ところが、町長であるトマスの兄はトマスに公表を控えるよう説得するのです。⁽⁴⁾ **C**、町のハンエイを願って温泉設備投資をし、やっとな町が活性化してきたところです。この時点で、温泉が汚染されていることを公にされたのでは、町のイメージが悪くなり、温泉をあてにした観光客は激減します。そうなれば、温泉のおかげで潤い始めた町の人々に不利益を与えるだけだと主張します。

あくまでも、病原菌を含む汚染された温泉というのはトマスの目に映る風景であり、人間の目に入らないそのような細菌などあるのやらないのやらわからないものだと町長は言うわけです。それなのに、汚染の疑いが報じられたとなれば、当然、汚染処理の設備を整えなければならず、新たにまた多額の資金を投入しなければならないわけで、税金として町民に負担がかかってし

まいます。

このように、町長の目に映る温泉汚染公表がもたらす風景は、町の財政が逼迫^{ひっばく}し、町民が苦しむ姿です。

対してトマスは、人々の健康に害を及ぼさないようにすることが科学者としての使命だと汚染公表を主張します。その揺るぎない信念は、公表すれば専属医を解職すると町長から示唆^xされても動じません。

最初は科学者を正義の人として高く評価していた新聞編集長でしたが、汚染公表が町民の利害を脅かすことになり、人民から新聞への支持が得られないことが見えてくると、手のひらを返して町長の側につきます。

さらにこの状況を知った町民はどちらを支持するかというと、利害が優先され、トマスを批判するようになるのです。その人民の姿によって浮かび上がってきたのは、科学者トマスにしても汚染を公表することで自己のメイセイ^yを当て込んでいたことでした。

それにしても、『人民の敵』は、僕たちが考えなければならぬ大切なことを鋭くつきつけてくるのです。

一つの社会問題が起きて、立場によって見える風景が異なること、さらにその風景が人々に提示されると、受け手の人々は自分の関心や利害に引き寄せて自分が望む風景を提示する人を支持して行動するということです。

加えて、人々の意見を拾い上げながら政治を動かすというデモクラシーの問題点をもイブセンは僕たちに提起したのです。19世紀に書かれた戯曲『人民の敵』にもかかわらず、立場によって異なって見える風景の構図は現代社会の問題点をくつきりと表す縮図のように思えないでしょうか。

福島第一原発事故や新型コロナウイルスの対応などをめぐって、マスメディア、政治家、科学者など、それぞれの意見には、彼らの社会的立場が大きく関係しているのではないかと、疑いの目で見ることの大切さを僕たちに示してくれていると思うのです。

一つの出来事を客観的に捉えようとすることは大事だとしても、僕たちはなかなか正確に捉えることはできません。しかし、メルロ・ポンティが述べるように、出来事^{注3}の状況における人間の位置づけを捉えることで客観的な把握に近づけるということ

はないでしょうか。

日常の生活世界においても、僕たちの前に現れる人たちはそれぞれさまざまな社会的位置にいるわけです。そして、彼（彼女）の位置から見える風景を僕たちに提示してくれるのです。逆に言えば、自分に見える風景もまた自分が置かれている位置から見えているものに他なりません。となれば、異なる風景を提示してくれる人との出会いに脅え怯むことなく、思考の幅を広げ合う貴重な機会と捉えて、まずは彼（彼女）の言葉に耳を傾けてみませんか。

また、メルロ・ポンティに依拠すると、こうも言えます。

異なる風景を語るその人の社会的位置や生育歴などに思いを馳せることで、相手のことが理解でき、さらに社会を形成している根本的なものは極めて多元的だということがわかってきます。その出会いを楽しんでみてはどうでしょう。

（岩本茂樹『「コミュ障」のための社会学——生きづらさの正体を探る』による。）

出題の都合上、一部中略・改変した箇所がある。）

（注1）ステイヴン・カーン——アメリカの歴史学者（1943〜）。

（注2）イプセン——ノルウェーの劇作家（1828〜1906）。

（注3）メルロ・ポンティ——フランスの哲学者（1908〜1961）。

問1 傍線部(ア)と(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
1
3

(配点6点)

(ア) ケイキ
1

- ① ケイリュウで釣りをする。
- ② 手紙の冒頭にハイケイと書く。
- ③ ケイセツの功を積む。
- ④ 上官にケイレイする。
- ⑤ 購入のケイヤクを結ぶ。

(イ) ハンエイ
2

- ① 雑草がハンモする。
- ② 新製品がハンバイされる。
- ③ 著書のジュウハンが決まる。
- ④ 人生のハンリョを得る。
- ⑤ 会場から機材をハンシュツする。

(ウ) メイセイ
3

- ① 彼はセイジン君子のようだ。
- ② 電話のオンセイが聞こえづらい。
- ③ あたりがセイジャクに包まれる。
- ④ 試合結果を受けてハンセイする。
- ⑤ 手指をセイケツに保つ。

問2

空欄

A

く

C

を補うのに最も適当なものを、次の①く⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号は一度しか選べない。解答番号は、A **4**、B **5**、C **6**。

(配点6点)

- ① あるいは ② また ③ とはいえ ④ しかし
⑤ それとも ⑥ そこで ⑦ というのも ⑧ つまり

問3

傍線部X・Yの語の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、7・8。

(配点6点)

X 示唆されても

7

- ① 説きふせられても
- ② けしかけられても
- ③ おどしつけられても
- ④ ほのめかされても
- ⑤ 言いつけられても

Y 多元的

8

- ① ある物事が広くすみずみまでゆきわたっている様子
- ② 多様な背景をもつ人々が寄り集まっている様子
- ③ 事態がさまざまに変化していつまでも定まらない様子
- ④ 物事や考えを成り立たせている要素がたくさんある様子
- ⑤ いくつもの段階が何層にも積み重なっている様子

問4

傍線部(1)「あの地獄谷を見下ろして立つと、この世のものならぬ雰囲気を感じる。ダンテを思い出すよ」とあるが、この言葉を引用することによって筆者はどのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、9。(配点5点)

- ① 壮大な谷の風景画を前にしたピカソは、単なる絵画としての出来映えや技量ではなく、その絵が心に与える深い感動を評価したということ。
- ② 文化的教養として高い知識を身につけた人は、絵画を鑑賞するとその背後に隠された作者の深い内面まで探り出す見方ができるということ。
- ③ 人が同じ絵画を鑑賞する場合、それぞれ心に響くものが異なるのは、本人があらかじめ身につけた教養の程度の差を表しているということ。
- ④ 教養のある人が絵画を鑑賞する際には、自身に備わった文化や知識・情報に応じて、絵画の世界にとどまらない深い捉え方をするとということ。
- ⑤ 絵に描かれた岩だらけの壮大な谷の風景が、現実とは思えない荒々しさを見せているところに、作者の卓抜な才能が見てとれるということ。

問5

傍線部②「バージャーのこの視点は、『女に生まれるのではない、女になるのだ』と述べたシモーヌ・ド・ボオヴォワールを引き継ぐもの」とあるが、どういふことか、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、

10。

(配点5点)

- ① 女性は男性から見られている視線を感じると、常にその視線から逃れようとしているという見方は、これまでの知の流れをくんだものである。
- ② 女性はいつでも、男性からのまなざしにとらわれながら自分自身を捉えているという見方は、女性解放運動への道を切り開いたものである。
- ③ 女性はいかなる時も、男性からのまなざしに対して自分がどう映るか意識しているという見方は、過去の知の延長線上に成り立つものである。
- ④ 女性は常に男性の目には自分がどう映るかを考えているという見方は、女性が生物学的に作られる性であることを明らかにしたものである。
- ⑤ 女性は男性からまなざしを向けられながら、自分がどう決断するかを考えているという見方は、過去の知的枠組みを受け継ぐものである。

問6

傍線部③「女性が輝く瞬間」とあるが、どういうものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選
びなさい。解答番号は、11。

(配点5点)

- ① 男性から結婚を申し込まれた女性が、妻となったことで男性を強力にコントロールできる立場を手に入れる瞬間。
- ② 男性から言い寄られた女性が、優位な立場からその男性を選ぶかどうかを自ら決める豊かな主体性を有する瞬間。
- ③ 男性から見つめられた女性が、目を逸らしながらもその男性からのまなざしを意識して自らを美しく見せる瞬間。
- ④ 男性から結婚を口にされた女性が、自分がその男性に選ばれたことについて喜びと自信に満ちあふれている瞬間。
- ⑤ 男性から言い寄られた女性が、その男性との親密な関係を受け入れるかどうかという重大な決断を迫られる瞬間。

問7

傍線部(4)「人民とともに歩む『人民日報』の編集長はトマスに紙面で事実を公表するよう迫ります」とあるが、この「編集長」という人物の話題を引用することによって筆者はどのようなことを述べようとしているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

12。

(配点6点)

- ① 一つの出来事に対して、人は職業や経済力など社会的な立場からそれぞれ異なった見方をするうえ、その時々のご自己の利害に合致する見方を支持して行動するということ。
- ② 一つの出来事が起こると、人は職業や経済力などそれぞれの社会的な立場を守ろうとする気持ちが働き、自己の利益になるような意見や見方を探し出して提示するということ。
- ③ 一つの出来事に対して、人は性別や職業など社会に置かれた立場からその出来事を捉えるので、それぞれの見方が提示されると各人の社会的立場のあり方が見えるということ。
- ④ 一つの出来事が起こると、人はまず最優先に自己の利益になるかどうかを基準として見るうえ、その見方はそれぞれの社会に置かれた立場から生まれたものであるということ。
- ⑤ 一つの出来事に対して、人は職業や生活水準など社会的な立場によって見方がそれぞれ異なるが、それらの多様な見方を提示されると逆に自己を見失ってしまうということ。

問8

傍線部(5)「現代社会の問題点」とあるが、筆者はどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。(配点5点)

- ① 社会に起こる出来事に関して人々の意見を拾い上げ、よりよい社会のために政治を動かすことが民主主義であるが、今やその実現が不可能だと疑われているという問題点。
- ② 社会に起こる個々の出来事に関する数多くの情報は、発信する側の社会的立場を反映したものであるが、立場の異なる人が互いの情報について話し合う機会がないという問題点。
- ③ 環境汚染に関する数多くの情報や意見は、当事者それぞれの社会的立場づけや利害を反映したものであり、それらをすべて拾い上げてまとめる解決は困難であるという問題点。
- ④ 社会に起こった特定の出来事に関する数多くの情報や意見は、発信者それぞれの社会的な立ち位置に即したものにすぎず、客観的で正しいものとはいえないという問題点。
- ⑤ 地球環境に関する数多くの情報は、メディアや政治家、科学者など多くの発信者のそれぞれの立場から流されるが、一般の人々にとっては理解するのが難しいという問題点。

問9

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

14。

(配点6点)

- ① ピカソとマルローは芸術鑑賞において高い教養を示したが、マルローは作者の内面を洞察した点でより優れている。
- ② カーンが19世紀に描かれた絵画に新しい女性像を見出した^{みいだ}ことで、絵画へのこれまでの偏った見方が是正された。
- ③ イプセンの『人民の敵』が描いた温泉汚染をめぐる人々の姿は、現代の環境問題を考えるうえでの指針となりうる。
- ④ マスメディア、政治家、科学者の多様な意見を総合的に取り入れることにより、社会のデモクラシーは形成される。
- ⑤ 人は自分の立場に偏った見方をしがちだが、異なる立場の視点を捉えることで、より広い視野と思考が可能になる。

二 次の文章を読んで後の問い（問1～問9）に答えなさい。

二〇一〇年代に最も広く世界の人々の注目を集めた科学技術は、人工知能（AI）とその関連技術だろう。

AIが近い将来ほとんどの人間の雇用を奪ってしまうのではないか、二〇四五年にもAIが人間を総合的に超越し自律的に進化する「技術的特異点（シンギュラリティ）」が到来するのではないか、といった議論には、専門家に限らず誰もが強い関心を抱く。⁽¹⁾ 実際にAIが人間を超えるパフォーマンスを示すタスクが増え、雇用への影響も増大してきた。

AIの研究は一九五〇年代に始まったが、コンピュータの性能が低かったこともあって二〇〇〇年代までは限られた成果しか出ていなかった。ところが二〇一〇年代に入り、AIに学習能力をもたせる機械学習、特に人間の脳の仕組みを模した深層学習（ディープラーニング）の手法が実用化されると、驚嘆すべき快拳を成し遂げるようになる。非常に複雑な知的ゲームである囲碁で、AIが人間のトップ棋士を凌駕する^{りようが}のははるか先だろうと思われていたにもかかわらず、二〇一六年にそれが実現したことがAIの進化の速さを人々に印象づけた。

AIの応用範囲は金融、医療、製薬、製造、農業、流通、交通、警察・司法、教育、研究、マーケティング、組織管理など、ほとんどあらゆる経済社会活動、そして後述する軍事分野に及び、そのインパクトは計り知れない。⁽²⁾ AIは無限に広大なイノベーションのフィールドとなった。各国はAI分野での競争力確保に向けた国家戦略を作り、産学官連携や人材育成に注力する。研究者の多くは大学と企業を行き来して活躍し、産学の垣根を簡単に乗り越える。企業はすばやく国際提携に動き、軍事と民生の区別がつきにくい形で、AIと他のあらゆる科学技術が融合しながら研究開発が進んでいる。

こうした点でAIは、近年の科学技術の方向性のうち「システムのネットワーク化・ボーダーレス化」や「イノベーション信^ア奉」を先鋭化した形で具現しているといえよう。

ところで、AIが二〇一〇年代に社会変革の中心に躍り出た背景には、深層学習の実用化とコンピュータの計算能力の^アノびに

II

I

加え、AIに学習させるデータの量が飛躍的に増大したことが大きい。モバイル機器やSNSの普及拡大などで世界に存在するデータの量は急増し、二〇一〇年代初め頃からビッグデータという概念が普及し始めた。

III

ビッグデータという用語の安定した定義はないが、構造化されていない大量のデータの集合と捉えてよいだろう。ビッグデータの統計学的解析は、それ自体イノベーションの大きな源泉となったが、AIを用いることでより高度な判断や知見を導くことができる。一方で、AIの能力を高めるには質の高い大量のデータの確保こそが重要になる。

IV

近年第4次産業革命が論じられる際、AIはその核となる技術に位置づけられるが、周辺の関連技術も重要である。量子コンピュータを含むハードウェアや、AIの判断を基に環境と作用するロボット技術、センサーを取りつけたあらゆるモノをインターネットに接続しデータを送受信するモノのインターネット（IoT）が鍵を握る。さらに、ナノテクノロジーやバイオテクノロジーなどによるイノベーションも含めて第4次産業革命が捉えられることもある。これらの幅広い技術による総合的な社会の革新は、たしかに潜在的に新しい産業革命と呼ばれ得るだろう。

V

一方で、AIの興隆が、いわゆる第3次産業革命の中核的な技術とされるコンピュータの量的な性能向上を前提としたことを考えれば、第4次産業革命は第3次産業革命の延長線上にあるともいえる。AIの学習用データの収集を容易にしたのがインターネットであったことを考えると、二つの産業革命の連続性はさらに際立つ。第3次・第4次産業革命の概念をどう捉えるべきかの評価は、もう少し事態の推移をみてからなされるべきだろう。

AIはデュアルユース技術であり、世界各国の軍がAIの研究開発への投資を拡大してきた。AIは、ちようほう諜報、サイバーセキュリティから兵士の訓練、作戦立案、そして自律型システムの開発に至るまで幅広い軍事的応用があり、きわめて大きな戦略的重要性をもつ。

この分野では米国とともに中国が世界を主導している。特に中国は「軍民融合」、すなわちデュアルユース推進政策の下、民生部門の技術の急速な進化（海外の企業や大学からの技術導入を含む）を軍事部門に取り入れる態勢を整え、AIの高いデュアル

ユース性を活かした開発戦略をとってきた。米国も、特に二〇一七年にドナルド・トランプ政権になってから軍事目的のAIの研究開発を一層重視する。

近年特に国際的に議論されてきたのは、自律型致死兵器システム(LAWS)、**A** 戦場で敵を自ら特定し攻撃するドローンやロボットの開発の是非である。国連などの場で多くの国がそれに反対し、NGOや科学者グループからの圧力もあるが、明確な規制は難しい。核兵器と⁽¹⁾二つ、本質的な国益がからむ科学技術についての国際的調整は容易ではない。

軍事利用以外では、AIが社会の監視に用いられることへの懸念もある。中国を先頭に、顔認証が可能な監視カメラなどがネットワーク化され、犯罪者などの発見が容易になった。こうしたAIの利用は、特に中国などでは社会の統制と抑圧につながる。だが一方でそれは膨大なデータをもとに社会的リスクを効率的に管理する手段ともなる。

AIによる社会的リスクの管理は、**B** 人々の日常生活の隅々まで及ぶようになった。中国政府は二〇一四年、民間企業との連携の下、国民一人ひとりについて詳細な個人情報をもとにAIで信用度スコアを付与するシステムの構築を始めた。信用度スコアには所得や職歴、犯罪歴や過去の問題行動、電子決済の履歴、インターネット上での交友関係や言動などが反映されるが、そうして決まったスコアに応じて融資の条件や保険料の算定をはじめ、あらゆる社会活動をする際の待遇に差が出てくる。そのため国民はみなスコアを上げるため従順に振る舞うようになる。

信用度スコアのシステムは、プライバシーの問題をはじめ個人の自由の抑圧、社会的格差の助長など、さまざまな批判の対象となり得る。**C** それは、あらゆる公的・私的なサービスの提供に際して効率的なリスク管理の手段を提供する。AIは、有限な財政資源の下、費用対効果を重視しつつ実証的データに基づいてリスクに対応するという現代科学技術の方向性を、従来考えられなかったレベルで実現する手段にもなったのである。

中国の信用度スコア構築では、官民の関係のあり方が模索されるなか、民間企業の役割が大きくなってきたが、米国でもグーグルやアマゾンなど民間企業が個人データの最大限の活用をめざしている。連邦政府や自治体も多種多様なデータの整備・活

用・公開を進め、それを民間企業などが活用できるようにしており、また軍は当然つねに広範な諜報活動をしている。

欧州では、個人情報保護を新たな枠組みで担保する一般データ保護規則（GDPR）の制定（二〇一六年）などの動きもあった。しかし、官民を挙げたデータ重視の世界的な流れは止まらない。データの利用価値は官民の垣根や国境を越えてさまざまなデータが統合されることで大きく向上するからである。ここでも科学技術の形態のネットワーク化・ボーダーレス化の流れの加速をみてとることができる。

実証的データの重視は、経済的・社会的サービスに関わるリスクだけでなく、科学技術に関わるリスクへの対応でも一層顕著になってきた。化学物質や医薬品などのリスク評価では以前から確率論的な定量化が進んでいたが、近年データ（4）の質と量が上がり、解析技術も向上して、実証的データ重視の流れが一層進んだ。

自然災害のリスク対応でも、データの比重が増してきた。きめ細かく膨大なデータが利用可能になったことで気象モデルが精密化し、集中豪雨や台風の進路予想などの精度が著しく高まった。地震のリスクについても、微小地震のデータをはじめ多様なデータを分析して地震予測を行う帰納的なアプローチが注目を集める。

そもそもリスクへの対応は、プロセスよりも結果が重視されがちな領域である。つまり、地震のメカニズムがはっきりわからなくても地震がより正確に予測できれば価値があるし、犯罪者の心理を解明するよりも犯罪を実際に減少させるほうが社会的には優先される。データ重視、結果重視の傾向は今後も変わる要因が見当たらない。

だが、リスク対応の背後にある理論や思考のプロセスが軽視されてよいわけではないだろう。データに依存し過ぎることの危険性は大きい。定量的データに基づく分析は、一見正確で厳密なようにみえても、実際には数多くの仮定や推定を経たものであることが多く、不確実性やバイアス（注3）をとともなう。またAI、特に深層学習による解析の過程は一般にトウメイ性（注4）が低く、その結果に恣意性も入り込みやすい。

D

、現実には科学技術のリスクへの対応やEBPM（注4）だけでなく個々の人々までもが定量的に評価され管理される時代がみ

えてきた。⁽⁵⁾人々がますますデータにより評価され報償される社会が現実味を帯びてきたのである。

ここで想^{おも}い起^おこされるのは、二〇〇〇年代に入ってから科学研究の定量化・経済事業化である。研究者や大学は経済の論理に必ずしもなじまない。そこに定量的評価が適用されたことで歪^{ひず}みが生じてきた。国民の信用度スコアのようなシステムも同様の副作用を起こすだろう。AIは、まさにわれわれの社会やわれわれ自身のふるまいをも変えてしまいかねないパワーとリスクをもつ科学技術だといえる。

(佐藤靖『科学技術の現代史』による。出題の都合上、一部中略した箇所がある。)

(注1) イノベーション——技術革新、新しい技術による社会変革のこと。

(注2) デュアルユース——民間と軍事の両方に用いられること。

(注3) バイアス——偏向。傾向。偏り。

(注4) EBP M——証拠に基づく政策立案 (Evidence-based policy making) のこと。

問1 傍線部(ア)と(ウ)と同じ漢字を含む熟語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、
15
17

(配点6点)

(ア) ノ|び

15

- ① シンシ的な態度をとる。
- ② シンジツを明らかにする。
- ③ シンチョウに行動する。
- ④ カシンが王にひざまずく。
- ⑤ 高速道路をエンシンする工事が始まる。

(イ) ニ|て

16

- ① ルイジした出来事から推測する。
- ② ジヒ深い対応に感謝する。
- ③ 責任をとってジニンする。
- ④ 大勢のジドウを引率する。
- ⑤ 由緒あるジインを見学する。

(ウ) トウ|メイ

17

- ① 水を加熱してフットウさせる。
- ② 先代のやり方をトウシユウする。
- ③ 光がガラスをトウカする。
- ④ 銀行が口座をトウケツする。
- ⑤ 戸籍トウホンをとりよせる。

問2 次の文は本文の一部であるが、文中の **I** ～ **V** のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、**18**。

(配点3点)

そのため、あらゆる企業がデータの収集に力を入れるようになった。

- ① I ② II ③ III ④ IV ⑤ V

問3

空欄 **A** ～ **D** を補うのに最も適当なものを、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号は一度しか選べない。解答番号は、**A** **19**、**B** **20**、**C** **21**、**D** **22**。

(配点8点)

- ① そのため ② さらに ③ とはいえ ④ すなわち
⑤ 他方で ⑥ そこで ⑦ というのも ⑧ あるいは

問4

傍線部(1)「実際にAIが人間を超えるパフォーマンスを示すタスクが増え、雇用への影響も増大してきた」とあるが、なぜこのようになったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、23。

(配点5点)

- ① コンピュータの性能が高まったことで、AIが人の脳の仕組みを模した深層学習を進化させた機械学習によって高い学習能力を習得したから。
- ② 二〇一〇年代に入ってからからの科学技術の発展によって、AIが人間を総合的に超越し自律的に進化するシンギュラリティが到来したから。
- ③ コンピュータの高性能化により、AIの研究者が人の脳の仕組みを模した深層学習の手法を学習したことでAIが飛躍的に進化したから。
- ④ 高性能のコンピュータによって、AIに学習能力をもたせる機械学習として人の脳の仕組みを模した深層学習の手法が実用化されたから。
- ⑤ 高性能のコンピュータがAIに学習能力をもたせる機械学習に深層学習の手法を可能としたことで、AIが人間を凌駕し自律的に進化したから。

問5

傍線部②「AIは無限に広大なイノベーションのフィールドとなった」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、24。

(配点5点)

- ① AIはあらゆる経済社会活動や軍事分野において広く応用されており、他のすべての科学技術よりもはるかに投資が拡大されていることで、AIは社会変革を担う中心的な領域となったということ。
- ② AIについて各国は国際的な競争力確保に向けた国家戦略を国内で進める一方、企業は逆に国際提携に動いている点で、AIは国家と民間ともにインパクトを与えた技術革新となったということ。
- ③ AIの応用範囲はすべての経済社会活動と軍事分野に及び、軍事と民生の区別がつきにくい形でAIと他の科学技術が融合することで、AIは国際紛争の中心となる可能性が高くなったということ。
- ④ AIはほぼあらゆる経済社会活動と軍事分野に広く応用されており、他の科学技術と同様に研究開発されている点で、AIという革新的技術は国際社会の隅々にまでも行き渡ったということ。
- ⑤ AIはほぼすべての経済社会活動と軍事分野に应用範囲が広がり、AIと他のあらゆる科学技術が融合しながら研究開発が進んでいることで、AIは社会変革の中心的な領域となったということ。

問6

傍線部③「AIが社会の監視に用いられることへの懸念」とあるが、ここでの「懸念」とは具体的にどういうものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、25。(配点5点)

- ① AIによって社会を管理する手段が、国家の軍事部門に取り入れられることで、人々の自由や個人情報の保護が阻害され、社会の統制と抑圧につながるというもの。
- ② ネットワーク化された監視カメラによってAIによる犯罪者などの発見が可能となることで、社会の治安がよくなり、人々の日常生活の安全が担保されるというもの。
- ③ AIによる社会的リスクの管理が、人々の日常生活全般にまで及ぶことで、個人のプライバシーや自由が侵され、社会の統制と抑圧につながるというもの。
- ④ AIによる社会的リスクの管理として、国家によって集められた膨大な個人情報のデータが、国家と連携した民間企業によってひそかに悪用されるというもの。
- ⑤ AIを用いた監視カメラによる犯罪抑止政策が、人々の日常生活の隅々にまで及ぶことで、自由を制限された人々は逆に国家への不満を募らせるといふもの。

問7

傍線部(4)「近年データの質と量上がり、解析技術も向上して、実証的データ重視の流れが一層進んだ」とあるが、このことに対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、26。

(配点6点)

- ① 実証的データを解析してリスクに対応する動きが重視されるが、実際のデータ解析は不確実性や偏りもあるので過度な依存は危ういといえる。
- ② 実証的データを解析してリスクに対応する動きは、その正確性と安全性により経済的、社会的サービスだけではなく科学技術分野にも及んでいる。
- ③ 実証的データを分析してリスクに対応する動きを重んじる風潮には、データ解析に恣意的な偏向や不確実性などありえないという思い込みがある。
- ④ データの収集や解析のレベルが向上しているとはいえ、データ解析は人間が直接行う作業ゆえに偏りや恣意性が入るため、依存するべきではない。
- ⑤ データ解析の果たす役割は社会的リスクへの対応であるが、実際のデータ解析は専門的領域で行われており一般的に実用性があるかは不明である。

問8

傍線部⑤「人々がますますデータにより評価され報償される社会が現実味を帯びてきた」とあるが、「人々」が「データにより評価」されるとはどのような「社会」か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は、27。

(配点6点)

- ① AIによって解析される膨大な個人情報のデータによって、人々の社会活動を細々と管理し統制することで生活の安全と社会の安定をもたらす社会。
- ② AIによって詳細な個人情報のデータがあらゆる分野で活用され、人々はその定量的評価によってそれぞれ異なる待遇や位置づけを与えられる社会。
- ③ AIによって収集された詳細な個人情報のデータをもとに各人の好みや個性を分析することで、その人に適した情報やサービスが与えられる社会。
- ④ AIによって詳細な個人情報のデータが社会活動全般で活用され、人々はその定量的評価に基づいてそれぞれが負う社会的リスクに対応する社会。
- ⑤ AIによって膨大な個人情報のデータが解析され、能力や適性を評価されて選抜された人々が、それぞれに応じた職業や役割が与えられる社会。

問9

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、

28。

(配点6点)

- ① 世界各国がAIを幅広く軍事的に応用して開発競争が高まっているが、AIの軍事利用の是非は論じられていない。
- ② 科学技術のネットワーク化とポータレス化を加速するために、国境や地域の枠組みを超えた国際協力が必要である。
- ③ AIは、第3次革命の核であるコンピュータに連続する技術として第4次産業革命を可能にした唯一のものである。
- ④ 科学研究に、費用対効果を重んじた経済性の観点から実証的データに基づく定量的評価を行うのはふさわしくない。
- ⑤ 信用度スコアの政策は、国民がスコアのために従順に振る舞うことで社会的リスクが増大するという副作用がある。